

日々の授業力向上につながる協働的な校内研修の構築
～自校の授業研究と個々の授業像についてリフレクションする機会の創造～

学校マネジメントプログラム
小宮 創太

1. 研究の背景と目的

A 小学校では、校内授業研究を核とした、個々の教師の授業力向上を図ることに課題があった。その要因として、授業研究について振り返ることはあっても、そこから自身の実践に繋げることができなかつたことが考えられる。そこで、自校の授業研究について全体で協働的な省察を行う。この協働的な省察を生かしたペア教師同士の授業の参観により、個々の教師の省察を促す。この授業研究を核とした校内研修を構築することで、教師一人ひとりの授業力向上を促すことを目的とする。

2. 方法

教師の授業力向上を図るため、校内授業研究をハブの研修「ハブ・スタディ」と、教師同士のペア学習をローカルの研修「ローカル・スタディ」と見立て、教師の協働的な学びである「ハブ・スタディ」と教師の個別最適な学びと協働的な学びである「ローカル・スタディ」の往還を図る授業研究を核とした、個々の教師の授業力向上の促進を目指した校内研修を構築する（図1）。

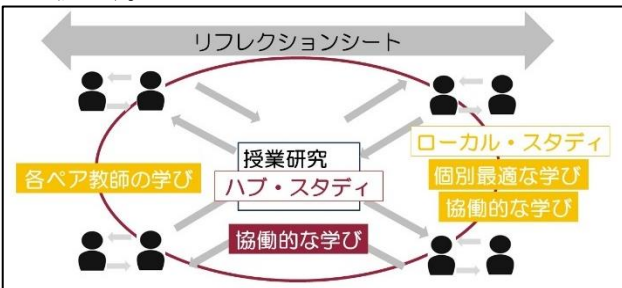


図1 ハブ・スタディとローカル・ローカルスタディの往還

3. 実践

(1) ハブ・スタディ

ハブ・スタディでは、石井（2017）が提案したラウンドスタディというワールド・カフェ型の事後研究会の方法を採用する。このラウンドスタディに、日々の実践についてのリフレクションを行う Round 0 と日々の授業実践に繋がるリフレクションを行う Round 5 を設定した。

(2) ローカル・スタディ

メンタリングの関係をもとにした、コーチングの手法と経験学習を促す。ペア教師が、互いに支え合う関係をもとに、授業力向上という目標達成に向けて、共に歩むことを目指した。ペア教師は、「目標の明確化・現状把握」「授業参観をもとにした見取り」「受け止め

学びの強化」の流れを通して、学び合うこととした。

(3) リフレクションシート

ハブ・スタディとローカル・スタディの往還を図るために、リフレクションシートを活用した。このリフレクションシートには、ハブ・スタディでの学びが、ローカル・スタディでの学びに生かすことを可能にすると考えた。このリフレクションを、日々の授業実践に生かしていく。

4. 評価と考察

(1) ハブ・スタディの評価と考察

これまでの A 小学校の教師の授業研究への前向きな態度が基盤となり、授業研究の考え方を、ハブ・スタディでの協働的なリフレクションによって深めることができたと考える。この協働的なリフレクションをもとに、個々の学びが生まれ、授業力向上に繋がったと考える。

(2) ローカル・スタディの評価と考察

ペア教師での授業実践の学びは、授業力向上を促すものであったと示された。その授業力向上は、事前・事後のペア教師の互いに授業を創り上げる行為によってさらに促されることが分かった。

(3) ハブ・スタディとローカル・スタディの往還の評価と考察

ローカル・スタディは、日々の実践を共有する場があるだけでなく、自身も授業者となる回数が増えることで、自然と自身の実践と向き合うこととなった。この日々の実践に向き合う機会と時間が増えたことで、ハブ・スタディにおける授業研究の継続性も高めることとなった。

5. 今後の課題と展望

ハブ・スタディとローカル・スタディを行う中で、教師の協働的な学びを実現することができた。しかし、ハブ・スタディにおいて、教師の個別最適な学びを実現することができなかつたことが課題である。授業研究における共通のビジョンを作る機会を設け、個々の教師が自律した提案をハブ・スタディでも行えるようにしたいと考えている。

6. 参考文献

石井英真, 原田三朗, 黒田真由美 (2017) [Round Study]教師の学びをアクティブにする授業研究—授業力を磨く! アクティブ・ラーニング研修法, 東洋館出版社